

霧神島

全彩色版

第三篇

成人向



始まりは数百年前

島民が寄り付かない、
険しい山の奥深くに
ある洞窟

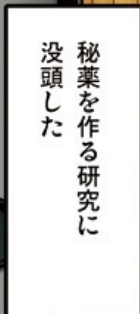
そこに潜む一匹の蟲を、
身の清めのために
入山していた島の宮司が
発見した



宮司は家に代々伝わる文献の
「神仏の位に近づく」という
秘薬の材料として使われた蟲と
酷似している事に気付いた

興味をそそられた宮司は
蟲の生態や薬の製法が
記されたその文献をもとに

秘薬を作る研究に
没頭した

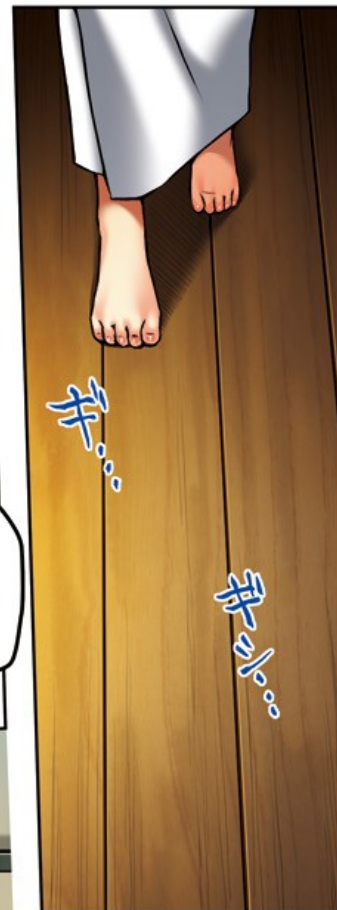


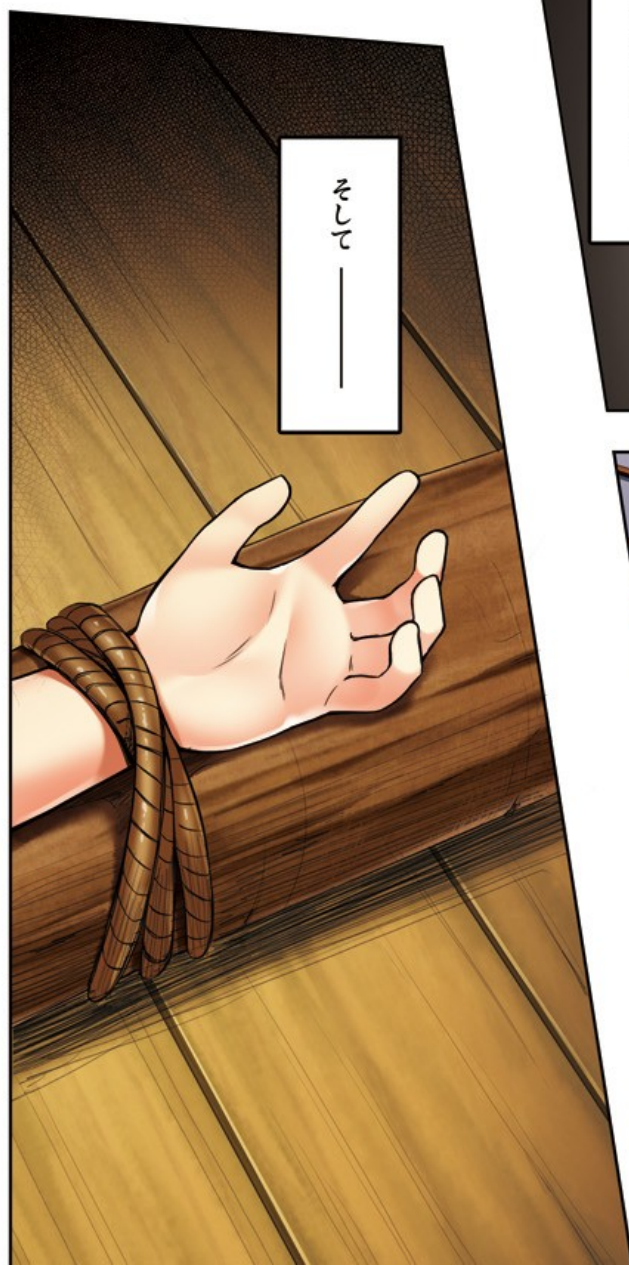
父上…怖い夢で
目が覚めてしまいました…

早くに妻を亡くした
宮司には、楓と云う名の
一人娘がいた



父上…?







父上っ！

何をなさるのですかっ
ほど
解いて下さい！

すまぬな、
楓……

島に棲む畜生で
試したが、未だ一度しか
成功しておらぬ……

最早時間が
無いのだ……

文献によると
これは古には森の民をも
獲物にしておったそうだ

もしかすると
これが最後の機会
かもしれぬ……

私は何としても
手に入れたいのだ……

ズ

ズ

ズ

ゴトッ



ひっ…

キキキ



いやっ
いやああ!!

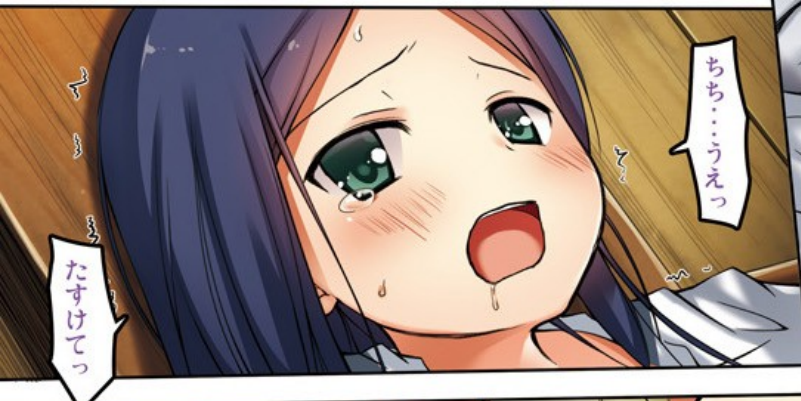
キキキ

うぜ

うぜ
うぜ

こないでえ!!

っ…ぐ





宮司が娘と蟲を
蔵に閉じ込めると
蟲は娘を苗床として
扱い始めた

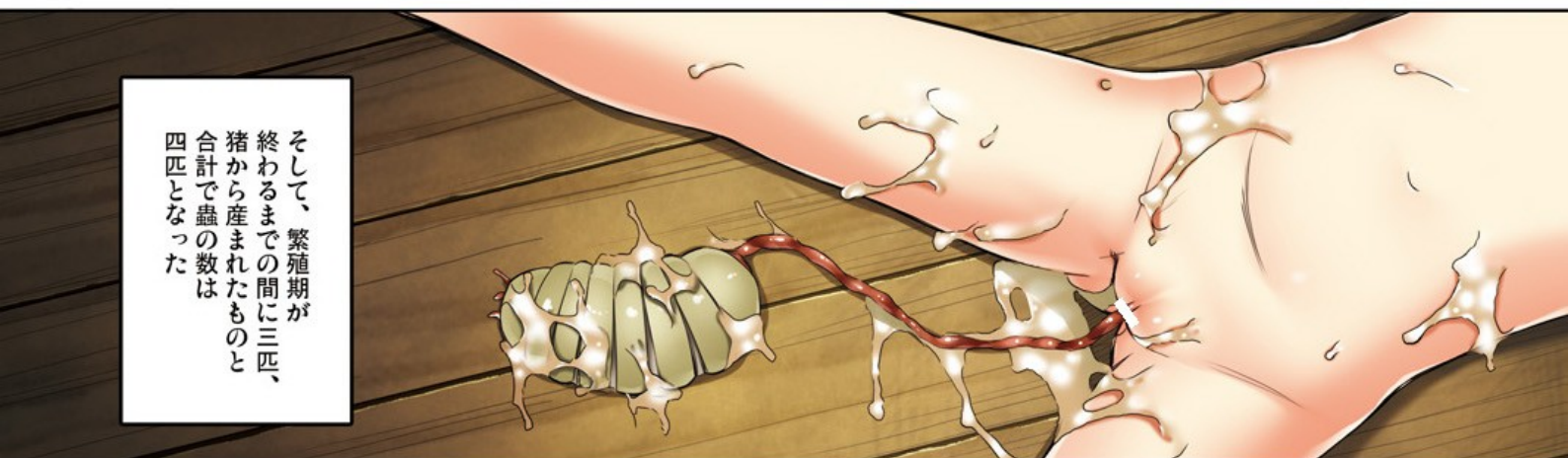
娘に餌を与え、
麻痺毒に侵し、
精力が戻る度に
交わり続けた

ついに娘は
蟲の子を身籠った

それから二ヶ月後



長期にわたる異常な行為が
蟲の毒によるものか、
娘は気が触れてしまっていた



そして、繁殖期が
終わるまでの間に三匹、
猪から産まれたものと
合計で蟲の数は
四匹となった



娘が産んだ蟲から
作り出された薬は、
猪のそれよりも非常に
効果が高く上質な
ものであった

文献なども踏まえ、
人との相性が良いと
考えられた



壊れてしまった娘は
誰にも見つからないよう
座敷牢に閉じ込められた



五年後、成長した蟲達の
繁殖期が訪れる

宮司は娘を
再び苗床にしようと
試みた



しかし娘は
一向に孕まなかったため、
宮司は困り果てた

そして、薬を作るには
やはり人間を母胎とし、
且つ妊娠経験の無い
若い娘でなければ
ならないと考えた



苗床を早急に
用意しなければ
ならない

しかし、自身が衰え、
一人では困難だと
判断した宮司は、
親族の男衆を集め
薬を渡し、娘を宛がった

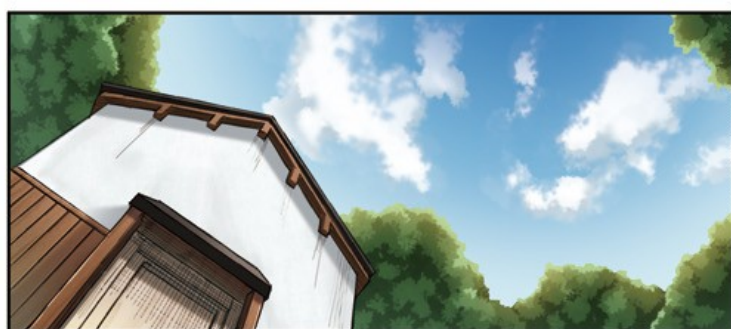
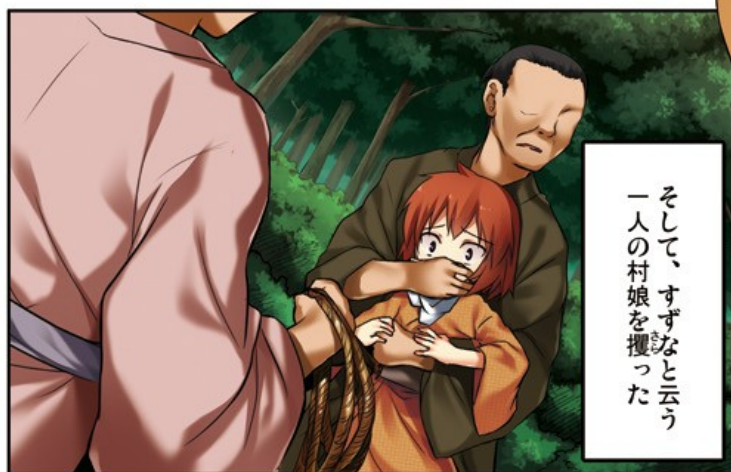
薬の素晴らしさを知った
男達は、話を持ち掛けると
容易に乗ってきた



男達は島に点在
する村々を周り、
丁度良い娘を
物色した



そして、すずなと云う
一人の村娘を攫った



ちくしょうっ
放せよっ！

はったく
煩いのう

まあ元気があって
良いではないか

おっちゃん達
どこの村の人だ!?

これなら
良い苗床に
なろう

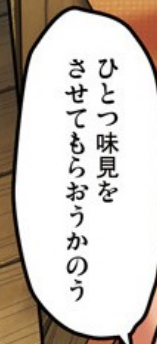
あとはあやつの
準備を待つだけ
だな

……
しかし……

こんな生娘を
畜生にくれてやるのは
些か勿体無いのう

す……

どれ……







かか様
たすけて！

かか様あ！

はひ

っあ



おうおう
本当に元気な
煩い娘だ

どれ
もっと激しく
突いてやるかの
良い声で
鳴けい

かっ

かっ



蟲にやるのが
余計に惜しく
なるわい

しかしこの柔肌に
この締め付け、
たまらんのう

ひん





ドッ

ビュッ

ほれっ
飲み下せっ……!

びゅる

びゅ

はあっ……

ひっく……

かか様あ……

ちゅちゅ

その日、村の者は
総出ですずなを探した

そして何日にも
渡り、山狩りが
行われた



繁殖期を終えるまでに
十匹を産み落とした

すずなは楓の時よりも
交尾の回数が増えたため、
より短い間隔で蟲子を宿した



…良い考えがある

儂らが攫うのでは無く
自ら貢ぐよう
仕向ければ良いのだ

貢がせる？

おう、島の霧や
夜を使えば誰にも
見つからず
事を成せよう



ふむ……



その話、
詳しく聞いて
みようか……



島にしばしば起きる
深い霧に紛れ、男は
攫った娘の村の井戸や
溜池に蟲から作った
毒を入れた

原因が判らない病に
村人は徐々に体を蝕まれ、
成す術なく、途方にふれてい
るところに男は噂を流した

「これは霧神様の祟りだ。
山狩りで山を荒らしたことで
お怒りになったのだ」



村人が宮司に
その噂について
尋ねたところ、
宮司は答えた

「それは真実です、
あなたたちはこの島の
古い神を呼び起こして
しまった」

「このままでは祟りが
島全体に拡がってしまう。
鎮めるためには生贄を
捧げ続けなければ
なりません」



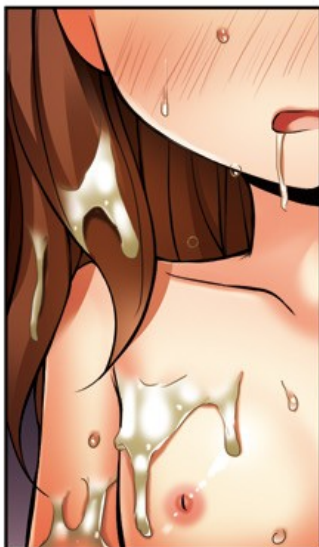
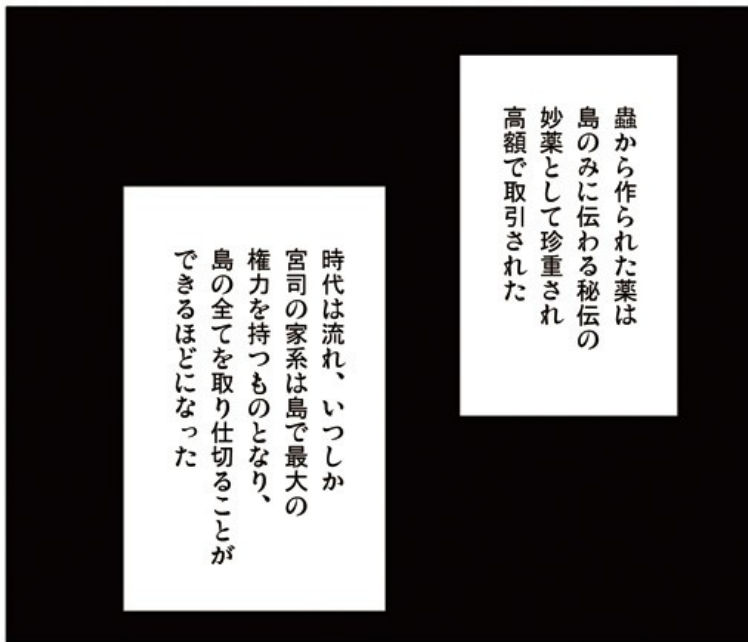
当時は神仏の存在が
当たり前のように信じられており、
ましてや薬にもすがりたい状況
である

島民は宮司の指示のもと、
島から一人の健康な娘を選び
生贄に捧げた



すると男は、今度は
毒を中和する薬を
井戸等に混入した

たちまち村人の病は
改善に向かった



こんなっ…
こんなこと…して…

フフ、其の碌に動かぬ体で
如何しようとするのじゃ？

儼等を呪うか？
ククク…

許さないん
だからっ…！！

早く常世に魂を
運べば楽に為るものを…

苗床の分際で
強情なやつじゃ

役割を果たした後は
男衆が存分に
翫り抜いて
やるからのう…

儼等のために
たっふりと蟲様を
産むのじゃぞ